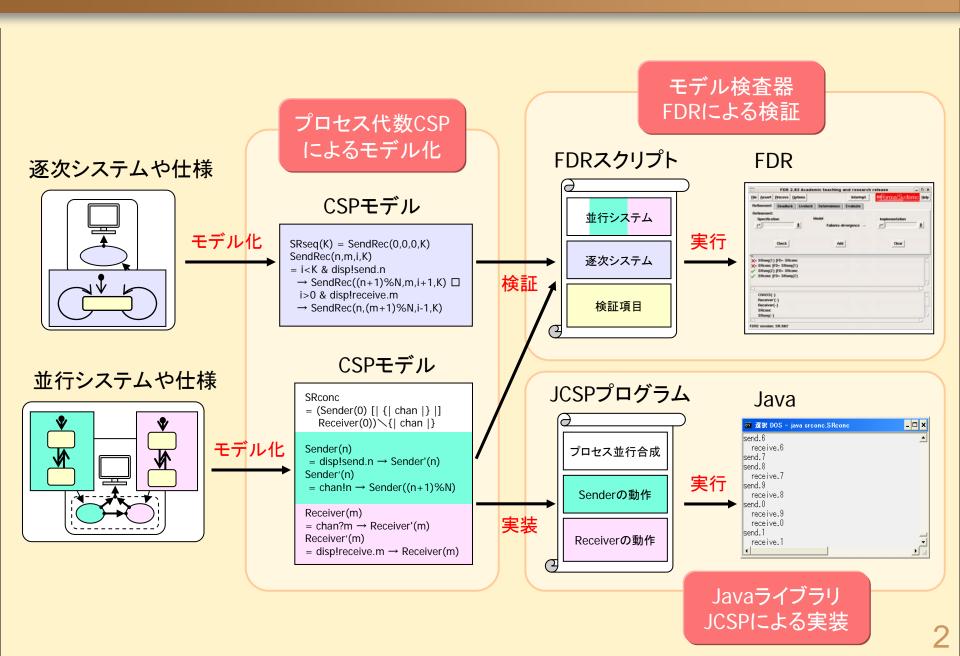
# プロセス代数CSPのモデル検査器FDRの紹介

磯部 祥尚

産業技術総合研究所AIST(ベンチャー開発センターに出向中) & 国立情報学研究所NII(トップエスイーでCSP関係の講座を担当)

#### 講義:並行システムの検証と実装



#### 講演内容

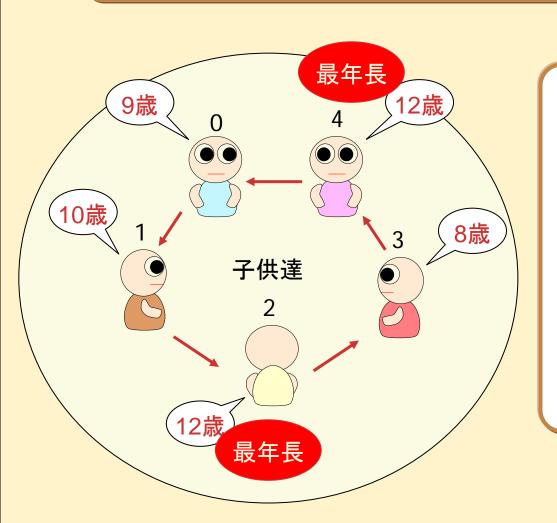
- (1) この講演で用いる例題(リーダー決定問題)の紹介
- (2) CSP(FDR)によるモデル化の例
- (3) FDRによる検証例
- (4) FDRによるデバッグの例
- (5) JCSPによる実装例



リーダー決定問題

#### リーダー決定問題(最年長者は誰?)

問題:輪になって座ったM人の子供たちから最年長者(複数可)を探す。

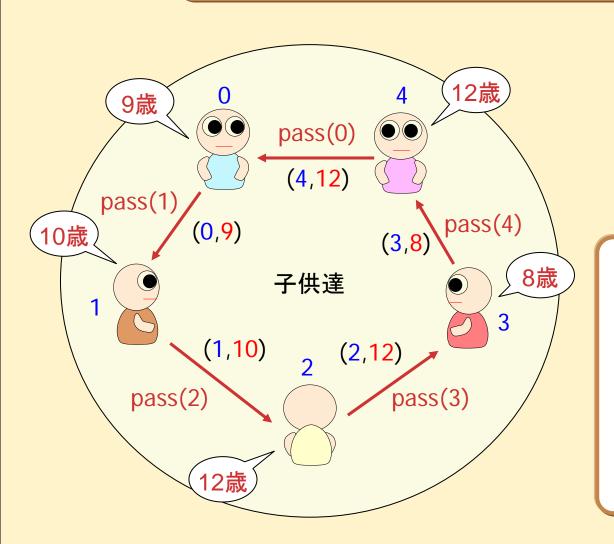


#### 条件

- (1) 各子供は右隣の子供にのみ話しかけることができる。
- (2) 各子供は自分の名前(ID)と 年齢の他に、同時に2人まで 他人の名前(ID)と年齢を覚 えることができる。
- (3) 大小の判断はできる。

#### チャネルの設定

子供たちは一方向のpassチャネルでつながれている。

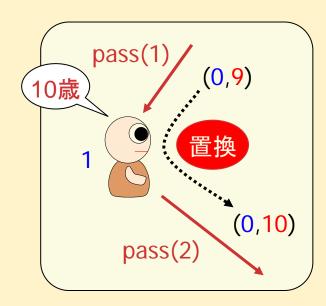


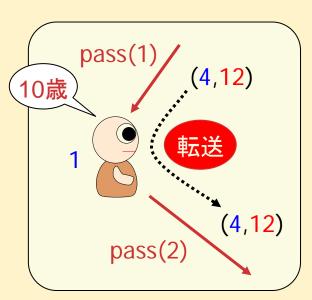
- IDがidの左側のチャネル: pass(id)
- IDがidの右側のチャネル: pass((id+1)%N)
- passで送受信するデータ: (ID, 年齢)

#### データの転送方法

子供たちはある規則に従ってデータ転送を繰り返す。

- 受取った年齢が自分より上ならばそのまま転送。
- 受取った年齢が自分より下ならば自分の年齢に置き換えて転送。

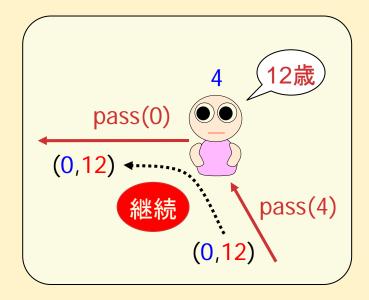


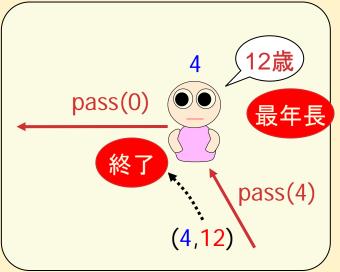


#### データの転送方法

子供たちはある規則に従ってデータ転送を繰り返す。

- 受取ったIDが自分のIDでないならば転送を<mark>継続</mark>。
- 受取ったIDが自分のIDならば転送を終了。
   ⇒このとき受け取った年齢が自分と同じならばこれが最大値。

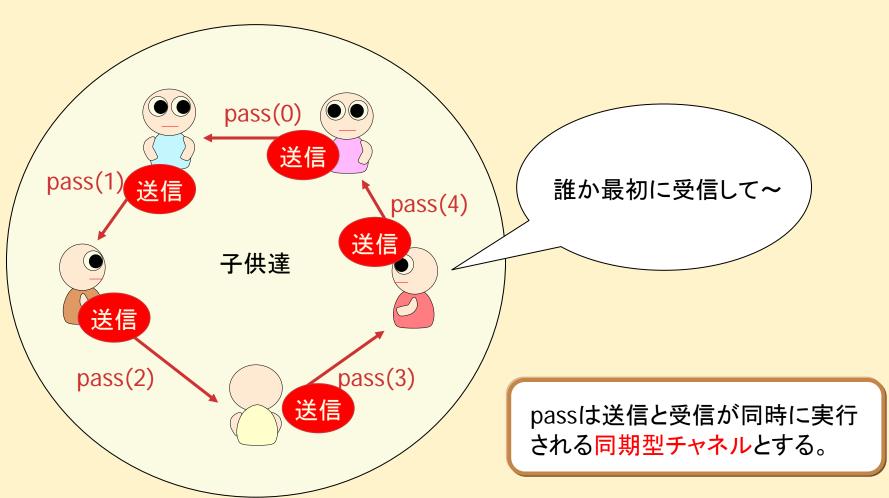




モデル化

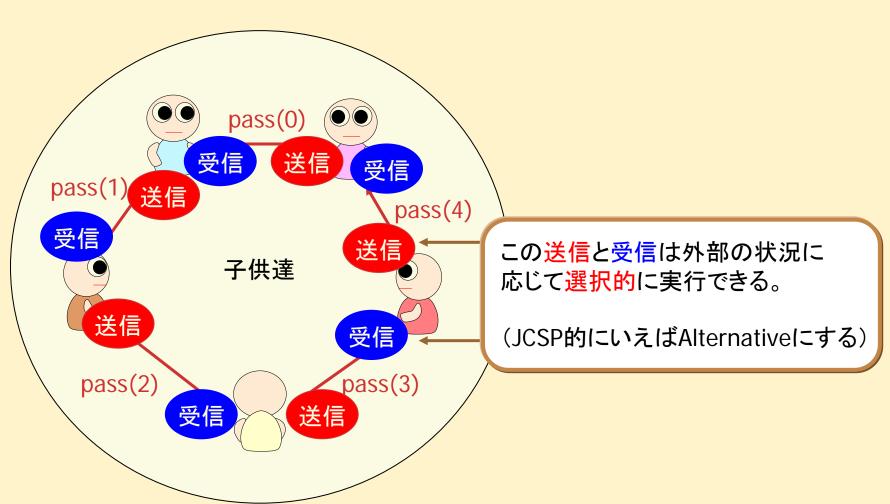
#### 各子供の動作

全員が送信してから受信をしようとすると何もできない(デッドロック)

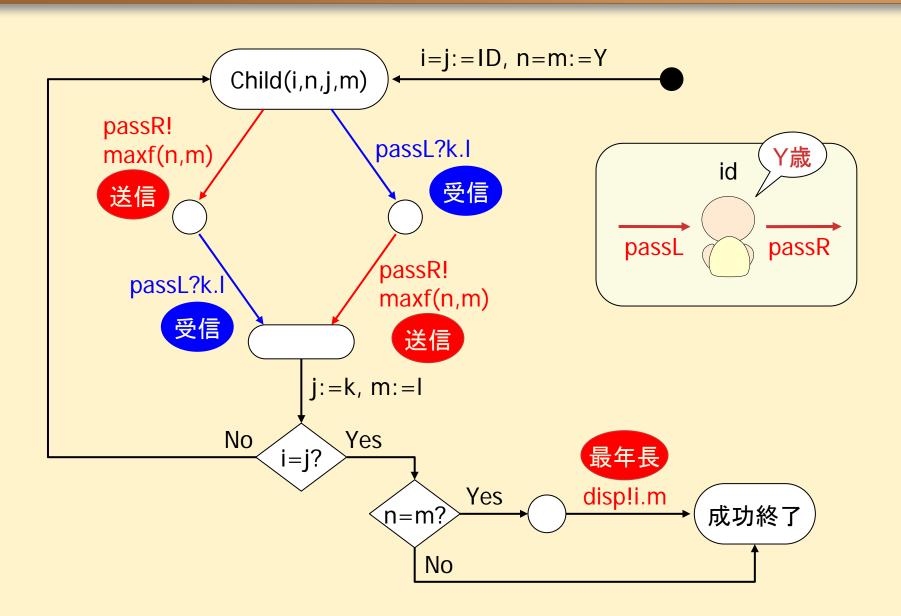


#### 各子供の動作

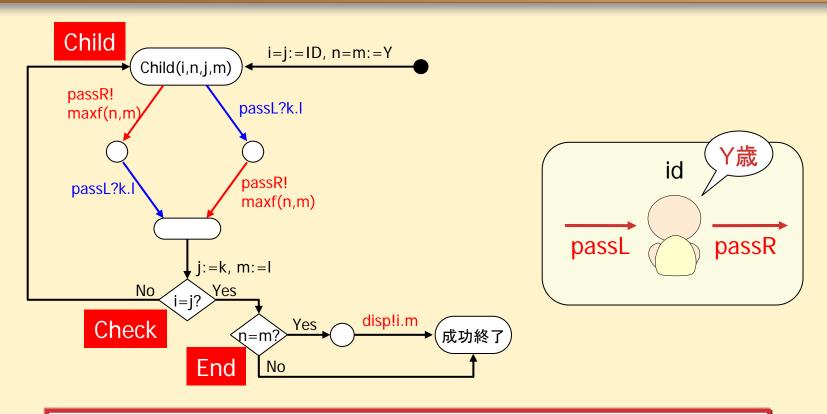
送信か受信を選択的に実行できるようにする。



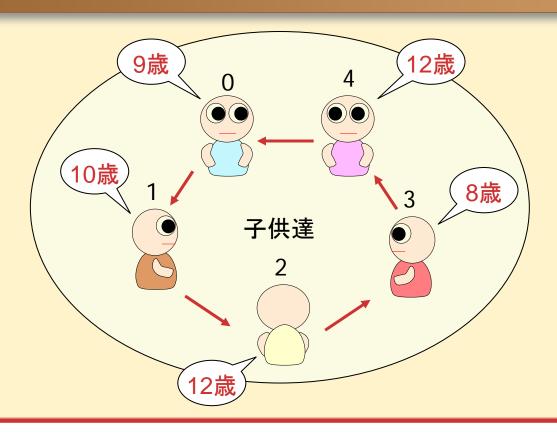
## 各子供のモデル化



## 各子供のFDRスクリプト



## 子供達の並行合成

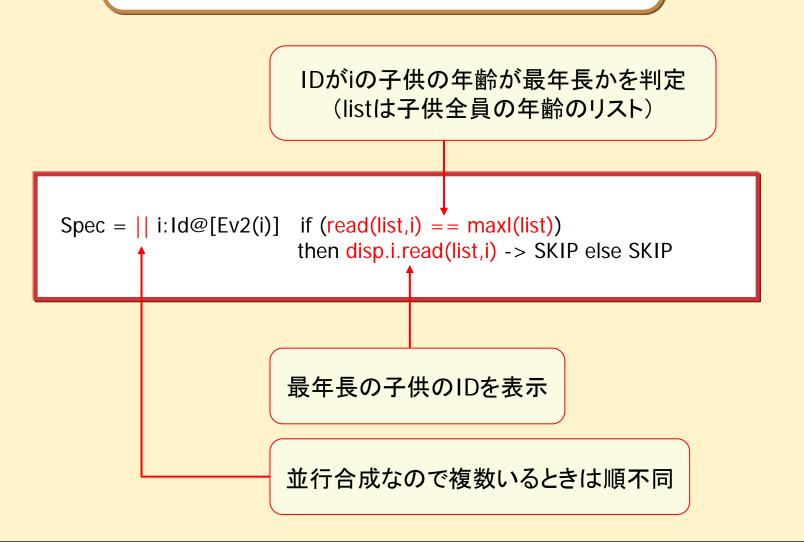


Sys = (|| i:Id @ [Ev(i)] Child(i,read(list,i),i,read(list,i))) \( \frac{1}{2} \)

FDR(CSP)の並行合記号 (共有するチャネル名を接続) passの隠蔽 (見えるのは結果dispのみ)

## 仕様のFDRスクリプト

仕様: 最年長の子供のIDを順不同で表示する。

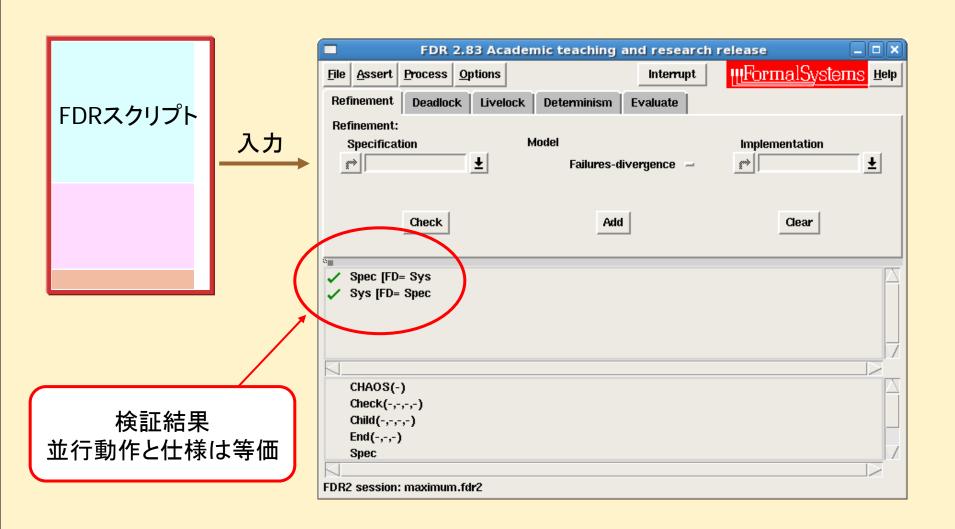


検証

## FDRスクリプトの全体

```
-- 準備
       -- 整数の最大値
M = 5
Nat = {0..N} -- 整数の集合
Id = {0..(M-1)} -- 個人ID
right(i) = (i+1)%M -- 右隣のID
list = <0, 1, 4, 2, 1> -- 初期値
-- read(s.n) 列sの番めを読み出す
read(s,0) = head(s)
read(s,n) = read(tail(s),n-1)
                                                                                         データ部(型、関数、チャネルなど)
-- maxf(n,m) nかmの大きい方を返す
maxf(n,m) = if (n > m) then n else m
-- maxl(s) 列s中の最大値を返す
maxl(<>) = 0
maxl(< n >) = n
maxl(< n > ^s) = if n > = maxl(s) then n else maxl(s)
-- channel 宣言
-- pass.i.k.n 左隣からiへId付値k.nを送受信
-- disp.k.n 最大値n(kは所有者のID)を表示
channel pass: Id.Id.Nat
channel disp : Id.Nat
-- プロセス
Child(i,n,i,m) = pass.right(i)!j.maxf(n,m) -> pass.i?k.l -> Check(i,n,k,l) [] -- 先に左に送信
         pass.i?k.l -> pass.right(i)!j.maxf(n,m) -> Check(i,n,k,l) -- 先に右から受信
Check(i,n,j,m) = if (i==j) then End(i,n,m) else Child(i,n,j,m) -- 自分のIdが戻ったら終了
End(i,n,m) = if (n==m) then disp.i.m -> SKIP else SKIP
                                                                                         プロセス部(並行システム、仕様など)
-- プロセスの合成
Ev(i) = {| pass.i, pass.right(i), disp.i |}
 Sys = (|| i:Id @ [Ev(i)] Child(i,read(list,i),i,read(list,i))) * {|pass|}
-- 仕様:最大値がdispから順不同に出力される
Ev2(i) = { | disp.i | }
 Spec = || i:Id@[Ev2(i)]
      if (read(list,i) == maxl(list))
      then disp.i.read(list,i) -> SKIP else SKIP
                                                                                         検証部(詳細化関係、デッドロックなど)
-- 検証
assert Spec [FD= Sys
assert Sys [FD= Spec
```

## FDRによる検証例



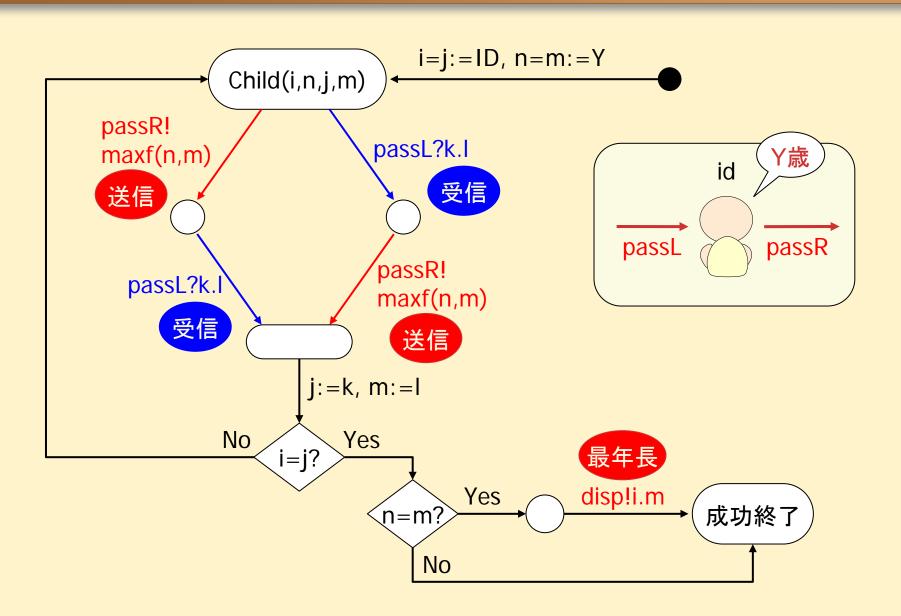
## FDRで検証可能な詳細化関係の種類と特徴

- CSPにはいくつかの種類の詳細化関係がある(検証目的で使い分ける)。
- FDRではCSPの次の3種類の詳細化関係を検証できる。

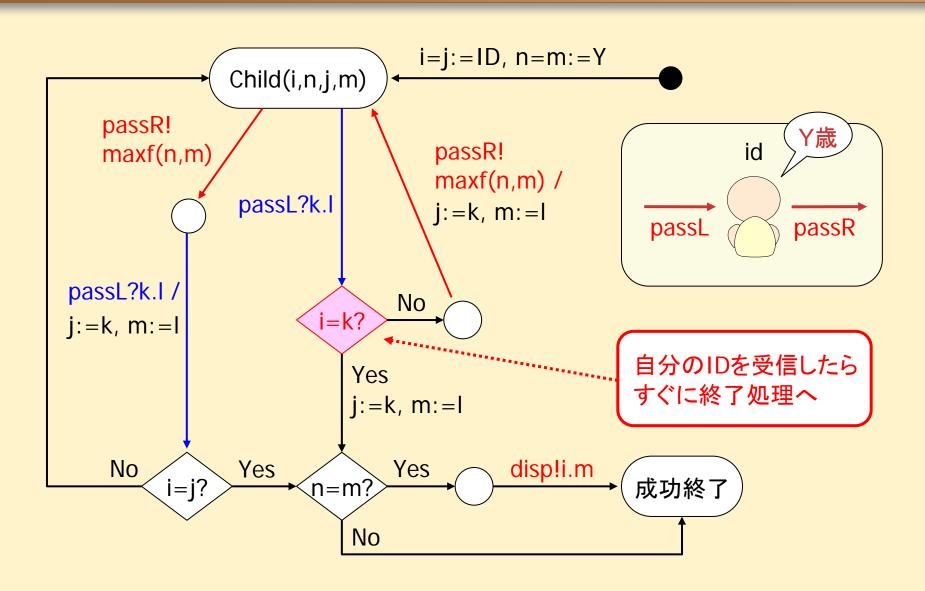
P <u></u> Q	トレースに基づく最も簡単な詳細化関係: PからQへの詳細化の過程で <mark>危険なトレースが入り込まない</mark> 。 (安全性検証)
P ⊑ <sub>F</sub> Q	トレースと <mark>拒否</mark> に基づく詳細化関係: PからQへの詳細化の過程で <mark>拒否されるイベントが増えない</mark> 。 (デッドロックフリー性検証、活性検証)
P ⊑ <sub>FD</sub> Q	トレースと拒否と内部ループに基づく詳細化関係: PからQへの詳細化の過程で内部ループが増えない。 (ライブロックフリー性検証)

デバッグ

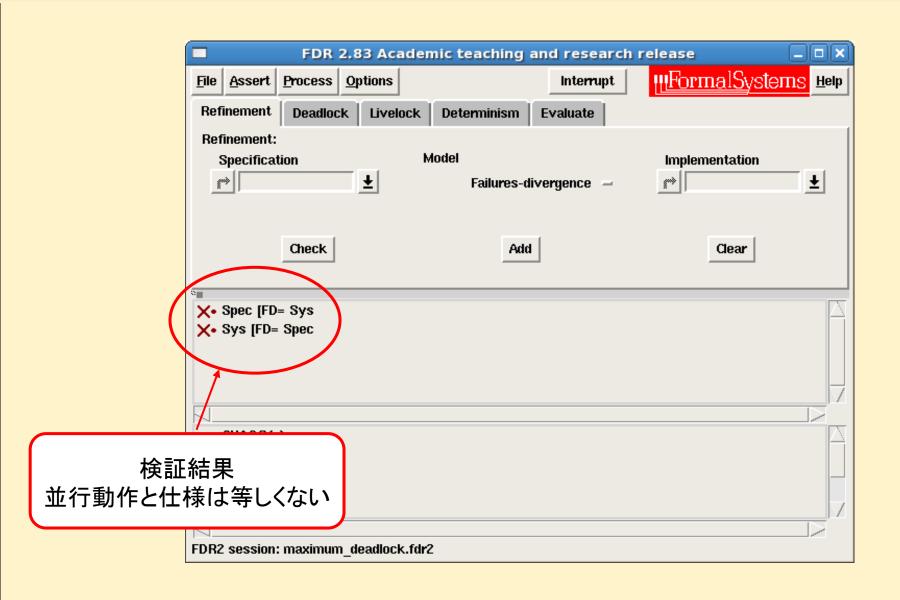
## 各子供のモデル化



## 子供のモデル化(デッドロック版)

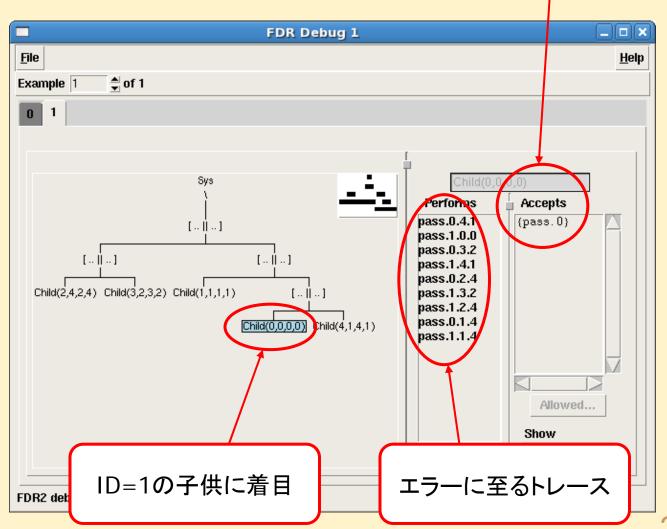


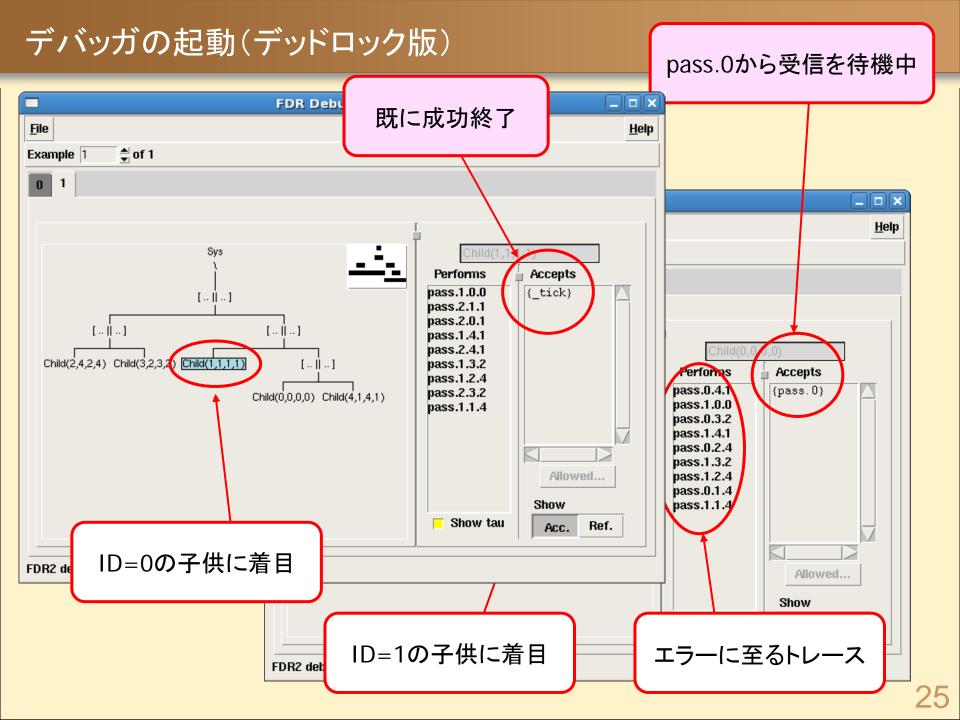
## FDRによる検証(デッドロック版)



## デバッガの起動(デッドロック版)

pass.0から受信を待機中

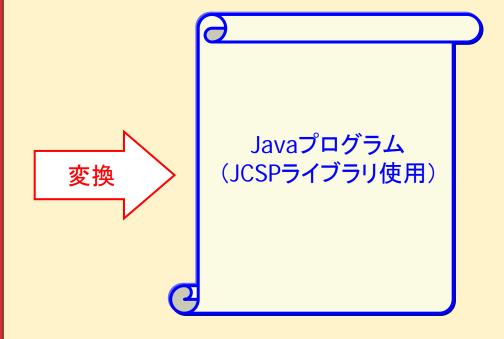




実装

## JCSPプログラムへの変換

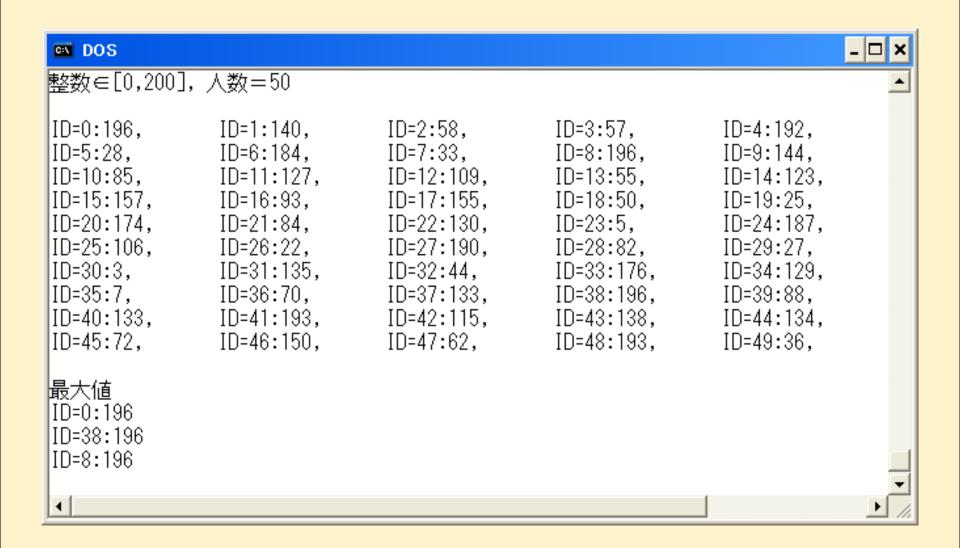
```
-- 準備
                          -- 整数の最大値
 M = 5
                           -- 人数
Nat = {0..N} -- 整数の集合
 Id = {0..(M-1)} -- 個人ID
right(i) = (i+1)%M -- 右隣のID
list = <0, 1, 4, 2, 1> -- 初期値
-- read(s,n) 列sの番めを読み出す
read(s.0) = head(s)
read(s,n) = read(tail(s),n-1)
-- maxf(n,m) nかmの大きい方を返す
maxf(n,m) = if (n > m) then n else m
-- maxl(s) 列s中の最大値を返す
maxl(<>) = 0
maxl(< n >) = n
maxl(< n > ^s) = if n > = maxl(s) then n else maxl(s)
 -- channel 宣言
-- pass.i.k.n 左隣からiへId付値k.nを送受信
-- disp.k.n 最大値n(kは所有者のID)を表示
channel pass : Id.Id.Nat
channel disp : Id.Nat
 -- プロセス
Child(i,n,i,m) = pass.right(i)!j.maxf(n,m) -> pass.i?k.l -> Check(i,n,k,l) [] -- 先に左に送信
                             pass.i?k.l -> pass.right(i)!j.maxf(n,m) -> Check(i,n,k,l) -- 先に右から受信
Check(i,n,j,m) = if (i==j) then End(i,n,m) else Child(i,n,j,m) -- 自分のIdが戻ったら終了
End(i,n,m) = if (n==m) then disp.i.m -> SKIP else SKIP
-- プロセスの合成
 Ev(i) = {| pass.i, pass.right(i), disp.i |}
   Sys = (|| i:Id @ [Ev(i)] Child(i,read(list,i),i,read(list,i))) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( \) \( 
-- 仕様:最大値がdispから順不同に出力される
Ev2(i) = { | disp.i | }
   Spec = || i:Id@[Ev2(i)]
                     if (read(list,i) == maxl(list))
                    then disp.i.read(list,i) -> SKIP else SKIP
-- 検証
assert Spec [FD= Sys
assert Sys [FD= Spec
```



この例でプログラミングは2時間程度

最初の実行でチャネル生成を忘れて エラーが1つでたが、それを修正後は 他のエラーはなし。

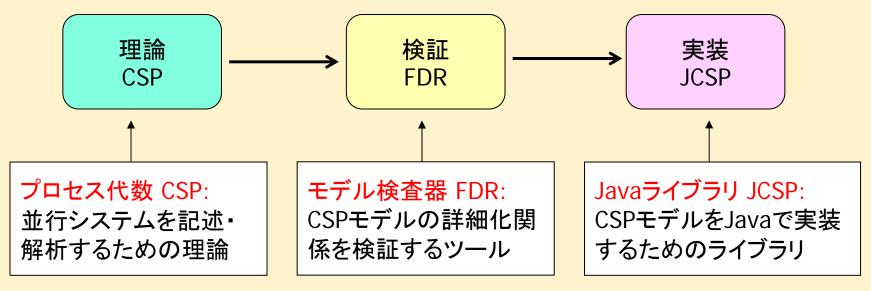
## JCSPプログラムの実行例(リーダー決定問題)



まとめ

#### まとめ

- (1) FDRでは並行システムも仕様もCSPモデルで表現する。
- (2) CSPモデル間の<mark>詳細化関係</mark>をFDRで検証できる。 (デッドロック、ライブロック、決定性検証を含む)
- (3) デバッガを使ってエラーに至るトレースとそのエラー状態を確認できる。
- (4) FDRで検証してからJCSP等で実装すると致命的エラーを減らせる。



#### 付録 (FDRスクリプト)

```
P.1
-- 準備
N = 5 -- 整数の最大値
       -- 人数
M = 5
Nat = {0..N} -- 整数の集合
Id = {0..(M-1)} -- 個人ID
right(i) = (i+1)%M -- 右隣のID
list = <0, 1, 4, 2, 1> -- 初期値
-- read(s,n) 列sの番めを読み出す
read(s,0) = head(s)
read(s,n) = read(tail(s),n-1)
-- maxf(n,m) nかmの大きい方を返す
maxf(n,m) = if (n > m) then n else m
-- maxl(s) 列s中の最大値を返す
maxl(<>) = 0
maxl(< n >) = n
maxl(< n > ^s) = if n > = maxl(s) then n else maxl(s)
-- channel 宣言
-- pass.i.k.n 左隣からiへId付値k.nを送受信
-- disp.k.n
            最大値n(kは所有者のID)を表示
channel pass: Id.Id.Nat
channel disp: Id.Nat
```

```
P.2
-- プロセス
Child(i,n,j,m) =
 pass.right(i)!j.maxf(n,m) -> pass.i?k.l -> Check(i,n,k,l) []
 pass.i?k.l -> pass.right(i)!j.maxf(n,m) -> Check(i,n,k,l)
Check(i,n,j,m) = if(i==j) then End(i,n,m) else Child(i,n,j,m)
End(i,n,m) = if (n==m) then disp.i.m -> SKIP else SKIP
-- プロセスの合成
Ev(i) = \{ | pass.i, pass.right(i), disp.i | \}
 Sys = (|| i:Id @ [Ev(i)] Child(i,read(list,i),i,read(list,i)))
       ¥ {|pass|}
-- 仕様:最大値がdispから順不同に出力される
Ev2(i) = \{ | disp.i | \}
 Spec = || i:Id@[Ev2(i)]|
        if (read(list,i) == maxl(list))
        then disp.i.read(list,i) -> SKIP else SKIP
-- 検証
assert Spec [FD= Sys
assert Sys [FD= Spec
```